

輸出事業計画

※申請者名：新篠津村輸出協議会、品目：米（GABA米・精米）

1. 輸出における現状と課題

<現状>

- ① 産地の農薬使用基準についてのクリーン度が求められる中で、栽培履歴の記帳を義務づけ、消費者から信頼される産地を目指している。
- ② 令和2年に新篠津村農業協同組合においてGLOBALG.A.P.認証を取得し、オリンピックイベントでの採用実績に起因する欧米向け輸出の増加
- ③ 台湾における現地パッキングと独自ブランドを展開
- ④ GABA米の開発

<課題>

【生産】

- ①地域の関係者による輸出推進体制の組織化
 - (1) 協議会内の情報共有
 - (2) 産地と海外サプライチェーン関係者とのコミュニケーション
- ②生産体系の転換を通じた大規模輸出産地のモデル構築
 - (1) GABA米の製造体系の確立
 - (2) フランス輸出用特別栽培米への転換

【流通】

・GABA米通年供給にむけた冷凍保管の実証

【販売】

- (1) トレーサビリティ情報の発信
- (2) GABA米のターゲット（消費者像）可視化・商流開発・プロモーション
- (3) 台湾での販路多様化
- (4) アメリカ市場の不透明感

2. 輸出事業計画の取組内容

<取組内容>

【生産】

- ①地域の関係者による輸出推進体制の組織化
 - (1) 産地会議開催（情報共有と課題抽出）
 - (2) 生産者海外研修（産地と海外サプライチェーンとのコミュニケーション強化）
 - ②生産体系の転換を通じた大規模輸出産地のモデル構築
 - (1) GABA米原料となる高タンパク米の計画的栽培（ゆめぴりかからの品種転換）
- ・高タンパク米の衛星リモートセンシングによる収穫適期判断と適期マップの制作と「高タンパク米」の選別収穫
 ・従来のGABA米を更に発展させた「GABAプロテイン米PLUS」の製造
- (2) 新市場開拓用米（含む、EU向け特別栽培米）の生産拡大

【流通】

・GABA米通年供給にむけた冷凍保管の実証

【販売】

- (1) 新しいつ米（GABA米・精米）のトレーサビリティ情報の外国語発信（4か国語）
- (2) マレーシアにおけるGABA米のターゲット可視化・規制対応・輸出商流開発
- (3) 台湾での販路多様化に向けた体制整備（アンバサダー店の指定）
- (4) 輸出実績の安定化に向けた変動市場・新市場調査

輸出事業計画

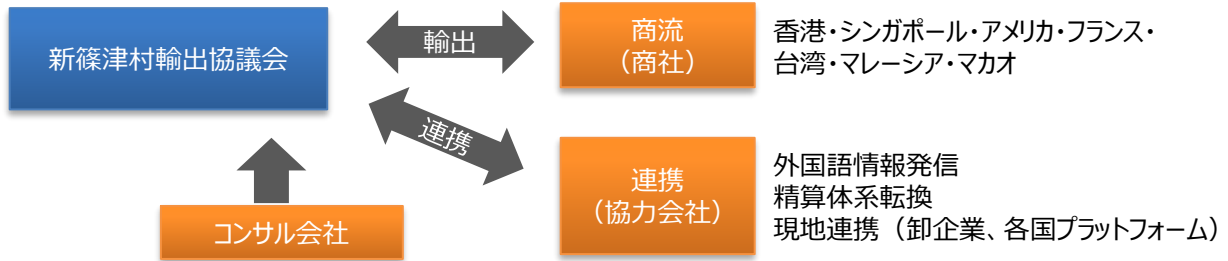
※申請者名：新篠津村輸出協議会、品目：米（GABA米・精米）

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

以下の役割分担で実施する。

- 輸出実績の取りまとめ：新篠津村農業協同組合
- GABA米に関するデータ・実績のとりまとめ：（株）インターリージョン・酪農学園大学
- 村内・道内の現況や課題に関する情報共有：北海道・新篠津村
- 海外マーケティング調査：合同会社ブランドスケープ

上記の情報を産地会議にて協議をし、新篠津村農業協同組合が主体となって計画の実証と見直しを行う。



4. 輸出目標額

	現状（令和6年）	目標年（令和9年）
輸出額（千円）	26,226	55,000
輸出量（t）	147	600
輸出先国	アメリカ、フランス、台湾	アメリカ、フランス、台湾、マレーシア
生産量/取扱数量（t）	12,309	12,250